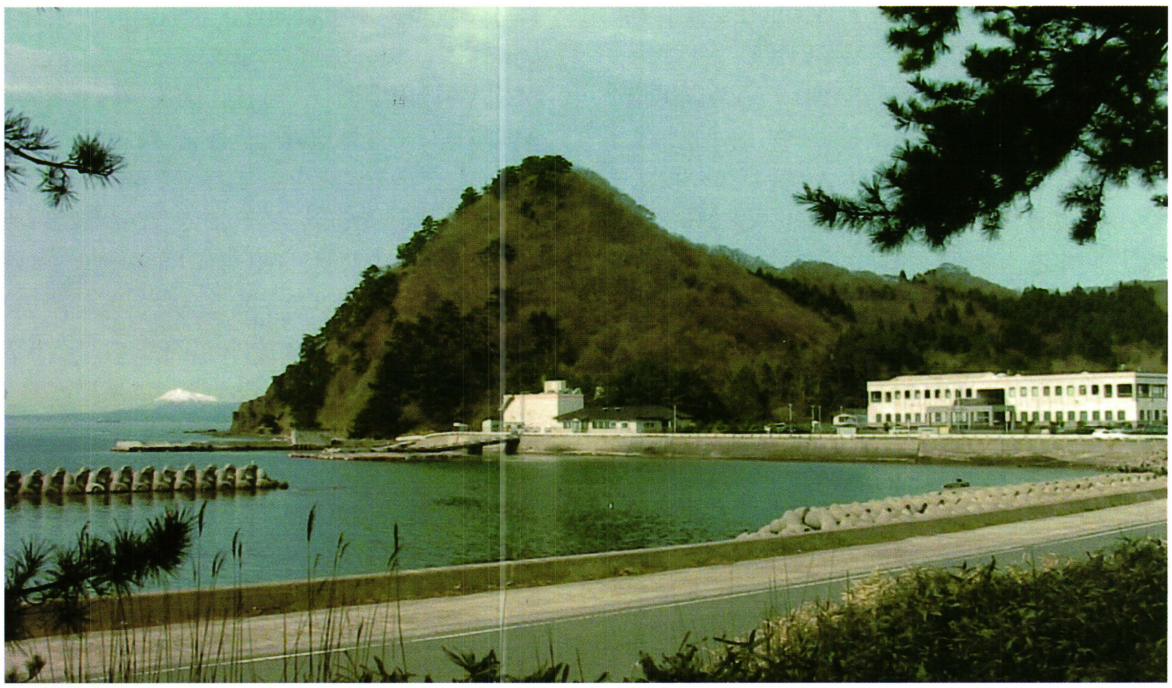
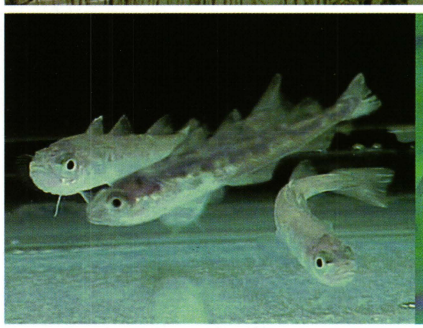
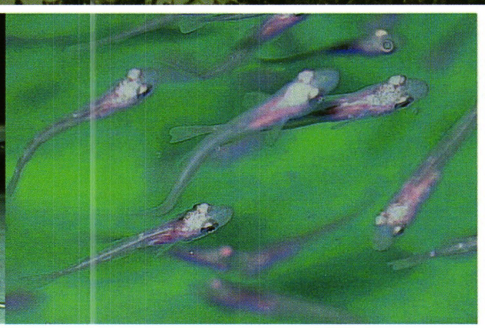
第89号
平成12年５月24日発行

青森県水産増殖センター

センターだより









遠くに岩木山を望む。飼育中のマダラ幼魚と稚魚の群れ。春を告げるセンター裏山のカタクリの花

目　次

新任のご挨拶 ……2
　水産部参事　所長事務取扱　足　助　光　久
　　次長　高　橋　克　成
平成12年度事業計画と分担
　漁　場　部 ……3
　ほたて貝部 ……3
　貝　類　部 ……4
　魚　類　部 ……4
　海　草　部 ……5
新年度加入メンバーより一言 ……5
平成12年度年間主要行事予定……6
平成12年度水産増殖センター職員配置……6

活彩あおもり

発行　青森県水産増殖センター　青森県東津軽郡平内町茂浦☎017－755－2155／印刷　㈱コーセイ印刷

新任のご挨拶



水産部参事　所長事務取扱
足　助　光　久

この４月から、石岡前水産部参事の後任として就任しましたので宜しくお願い致します。

思えば昭和43年大湊に設置されていた陸奥湾水産増殖研究所が発展的解消をし、当地に新しく水産増殖センターとして発足した時から18年間、主にノリ、ワカメ、コンブ、アワビ、ウニ等の磯根資源に関する仕事をして来ました。

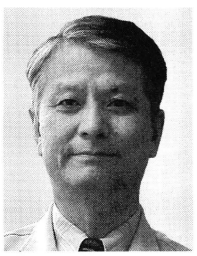
その後、行政部門において、後継者育成、栽培漁業、漁場整備、流通、経営などに携わり、このたび15年振りに水産増殖センター勤務となりました。

この間、我国水産業界は社会情勢や経済の変動にともない、或は独自の課題を抱えながら今日まで大いなる発展と変遷を遂げてまいりましたが近年の水産業を取り巻く環境は誠に厳しい状況となっております。

そこで、現在国では「水産基本法（仮称）」の平成13年度内制定に向け、これまでの関係制度の見直しや具体的施策の展開等について検討を進めている段階であり、今後、国民への水産物の安全供給そして漁業地域の活性化等により一層適確に対応していくこととしております。

一方本県水産業は、これまで豊かな漁場や優れた漁業技術を背景に、国民に対する安全で健康によい食糧を大量に供給すると共に、基幹産業として地域経済に大きく貢献して来ており、来たる21世紀においても益々その役割は重要となるものと考えております。

当センターでは、このような状況を踏まえ、本県沿岸漁業の一層の発展の為に各種技術開発や環境保全対策等に職員一同鋭意努力していく所存でありますので、皆様のご協力、ご支援の程宜しくお願い申し上げます。



次　　長
高　橋　克　成

このたび林前次長の後任として内水面水産試験場から新職場に着任しました。

新所長と同じように、昭和43年から当センターに勤務し、調査課、貝類課、新設のほたて貝部、漁場部、魚類部を経験しました。その後水産業改良普及関係の仕事に従事して、12年ぶりのセンター勤務となりました。

通算18年の勤務で今でも強い印象に残っているのは、最初の仕事となったホタテガイ殻に穴をあけるポリドラの調査、昭和50年のホタテガイ大量へい死の対応と漁場部時代の新しいブイロボット建設です。

愛着のある増殖センター勤務となって、思い出話をしてしまいましたが、年はとっても浦島太郎的な存在にならず、研究者としてのスピリットを忘れず、皆様から頂いたご協力を大切に次長の職務を果たしたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

平成12年度事業計画と分担

漁　場　部

部長　伊　藤　秀　明

４月の人事異動で（財）青森県栽培漁業公社へ派遣となった横山前部長に代わり、同公社派遣を解かれて漁場部長を勤めることになりました。

また、環境保健センターへ栄転された古川研究管理員に代わり、今井総括主任研究員が同センターから転入しました。留任の青山研究管理員、三津谷研究管理員、長崎技師を加えた計５名で業務を行いますので、よろしくお願いいたします。

本年度の主な事業と担当は次のとおりです。

1.　浅海定線調査

試験船「なつどまり」（濱田船長他４名乗船）により、陸奥湾の海況の特徴・経年変化を把握する目的で、水質調査を行います。（今井ほか）

2.　漁場環境総合監視調査

陸奥湾の漁場環境の維持・保全を目的に、水質・底質・底生生物の現況を把握し、経年変化を調査します。（今井ほか）

3.　海況自動観測

自動観測ブイ（ブイロボット）３基、自記観測ブイ１基により陸奥湾の海況を観測します。（長崎ほか）

4.　海況予報高度化技術確立調査

海況自動観測システムによる観測結果等を用い、陸奥湾海況情報の発行、ホタテガイ採苗速報等の基礎資料とするとともに、海況予報の精度向上を図ります。（青山ほか）

5.　貝毒発生監視調査

青森県沿岸のホタテガイ等の二枚貝の毒化状況と原因プランクトンの、出現状況を把握し、二枚貝の安全性を確保するとともに、漁業者への影響防止を図ります。（三津谷ほか）

6.　マリン・エコトピア調査

大湊湾において、総合的な水域環境保全対策を推進するための調査を行います。（長崎ほか）

ほたて貝部

部長　小　坂　善　信

４月の人事異動により、ほたて貝部もメンバーの交代がありました。漁業振興課に転出された工藤総括主任研究員に代わり、新採用として大水技師が着任しました。留任の小職と木村主幹、吉田技師、川村技能技師ともどもよろしくお願いします。

本年度の主な事業は次のとおりです。

1.　ホタテガイ増養殖試験

天然採苗予報調査、垂下養殖実態調査、地まき実態調査、実験漁場での実証試験等、ホタテガイ増養殖の安定と効率化のための試験・調査を実施します。（大水ほか）

2.　ホタテガイ新基準種苗養殖技術研究

新評価基準に基づき選別した種苗の成貝出荷までの養殖生産を実証するとともに、養殖方法別に質的評価を行い、高品質貝生産のための養殖技術を検討します。（吉田ほか）

3.　高品質ホタテガイの安定生産技術開発研究

高品質ホテタガイ生産のために、育種技術の開発・実証試験、母貝・天然採苗管理法の検討等を行います。（吉田ほか）

4.　海面養殖業高度化事業

適正な養殖管理と良質貝の生産等によりホタテガイ養殖の高度化を図るための総合事業を実施しますが、センターでは陸奥湾２カ所で「ホタテ養殖ごよみ」に基づいて養殖実証試験を行います。（大水ほか）

5.　ホタテガイ養殖漁場評価試験

地まき養殖の生産回復に必要な各種要因を明らかにするとともに、放流種苗の育成管理方法を検討します。（大水ほか）

6.　ホタテガイ適正収容量調査（新規）

ホタテガイの持続的安定生産のために、陸奥湾における適正収容量の見直しのための基礎調査を行います。（吉田ほか）

貝　類　部

部長　高　梨　勝　美

４月の人事異動で水産試験場に転出された須川総括研究管理員に代わり、水産試験場から貝類部長として着任しましたのでよろしくお願いします。

貝類部のメンバーは小職、柳谷総括主任研究員、田中技師の３名で、本年度は次のような業務を推進します。

1．磯根資源初期生態解明に関する研究（アワビ）

アワビ資源の回復・増大を図るため、天然漁場での餌料環境、食害生物や競合生物の影響等を調べ、アワビ発生初期の減耗要因に焦点をあわせた研究をする。（柳谷ほか）

2．ミネフジツボ養殖手法開発試験

ミネフジツボの採苗、育成技術及び養殖技術を開発し、ホタテガイ養殖の複合養殖化を図ることを目指します。なお、当試験についてはホタテ貝部から引継ぎ、今年度から貝類部が担当することになりました。（柳谷ほか）

3．マダカアワビ種苗生産技術開発試験

暖流系の大型アワビであるマダカアワビの種苗生産の可能性を検討するため、親貝の成熟促進を主体とする親貝育成管理技術並びに底生生活移行期における好適な餌環境についての飼育試験を行う。（田中ほか）

4．カキ類養殖技術開発試験

カキ類の分布や成熟過程を調べると共に、日本海沿岸で主に生息しているイワガキの人工採苗技術の開発試験を行うほか、得られた種苗を用いて天然海域における生育試験を行う。（田中ほか）

5．重要貝類増殖試験（サザエ）

日本海沿岸の重要資源であるサザエについて、天然採苗及び種苗生産初期の着底稚貝沖出しによる増殖技術を開発し、粗放的な栽培漁業の可能性について検討する。（田中ほか）

魚　類　部

部長　塩　垣　　優

定例人事異動により内水試から佐藤直三総括研究管理員と、所内異動により総務室から鹿内満春技能技師が転入してきました。前年度の体制に変化はありません。従って、これまでの７名体制に２名の増員となり総勢９名の大所帯となりました。

佐藤氏は水試、内水試等、多くの職場を歴任した経験豊富な方で、当所は初めての勤務地になりますが前から来てみたい職場だったとのことです。

鹿内氏は、機械に強く、当施設の心臓部であるアクアトロン（水温自動制御装置）の保守管理業務をメインとした業務に従事します。趣味のラジコン・ヘリコプターには年季が入っています。

今年度の新規事業では漁場整備費のマダラ基礎調査、ウスメバル生態調査等３事業が始まります。替わって、大戸瀬でやっていたクロソイ養殖試験が終了しました。

マダラ、クロソイ、マコガレイの種苗生産と放流効果調査事業は事業名が変更になりましたが今後３～５年間の継続事業として早速４月下旬にはクロソイの産仔期を迎え、種苗生産が始まります。

生物餌料の培養技術開発試験、陸奥湾生態系モニタリング調査はともに最終年度を迎えます。

この１年、浜の皆様にはあちこちでお世話になることと思いますが、そのうちニューフェースを伴ってお邪魔しますのでよろしくお願いします。

魚類部の事業は下記の通りです。

- 陸奥湾生態系モニタリング調査
- 生物餌料の培養技術の開発研究
- 資源増大技術開発事業（マダラ）
- 資源増大技術開発事業（マコガレイ）
- 資源添加率向上技術開発事業（クロソイ）
- ヒラメ無眼側黒化防止対策試験
- 海産魚類の魚病防疫に関すること
- 沿岸漁場整備事業関係
  養殖用クロソイ種苗生産（大戸瀬静穏域）、
  マダラ基礎調査、陸奥湾ウスメバル生態調査
- アクアトロン施設保守管理業務

海　草　部

部長　**仲　村　俊　毅**

本年度、海草部は、主に次のような調査、技術開発に取り組みますので、よろしくお願いします。

1．藻場・水産資源マップ作成事業

岩崎村から今別町に至る沿岸で、底質、海藻、ウニ、アワビなどの状況を調べ、藻場や地先資源の地図を作ります。（桐原ほか）

2．陸奥湾藻場修復試験（新規事業）

陸奥湾でナマコやウニの餌、水質・底質浄化などの役割を果たしているアマモ、スガモの藻場造成に取り組みます。（桐原ほか）

3．えごのり増養殖定着促進研究

エゴノリ種苗を漁場に添加して、生産を高める技術を開発するとともに、優れた種苗の作出に取り組みます。（山内ほか）

4．こんぶ藻場維持再生産技術開発研究（新規事業）

下北半島沿岸で磯焼け対策技術やマコンブ群落の効果的な維持管理技術を開発します。（桐原ほか）

5．バイテク種苗作出技術開発試験

新たな手法を用いてウミゾウメンやホンダワラ類の採苗技術を開発します。（山内ほか）

6．電源立地地域温排水対策事業

大間沿岸でウニ類を利用した効率的な雑海藻の除去技術開発および白糠沿岸での増殖場の機能回復試験を行います。（仲村ほか）

○○新年度加入メンバーより一言○○



総務室長　**高　村　　稔**

４月の人事異動により、下北地方漁港事務所より水産増殖センターに勤務となりました。

水産部に所属して今年で３年目ですが、水産行政については勉強不足で皆さんにご迷惑をかけておりますが、「作り育てる漁業」推進の一助となるよう努めるとともに、明るく楽しい職場づくりに鋭意努力して参りたいと思いますので、何分のご支援をお願いします。



総務室主事　**久須美　信　樹**

皆さん初めまして、総務室の久須美です。弘前地方出納事務所より来ました。

最初に言っておきますが、アルコールを受け付けない体質なので、お酒は一滴も飲めません。

趣味は、ホルンという楽器をやっていて、現在、青森の市民オーケストラに所属しています。

みなさんよろしくお願いします。



漁場部長　**伊　藤　秀　明**

鰺ヶ沢町、階上町での単身赴任生活を解かれて、３年振りに水産増殖センターに出戻って参りました。

ず～と生物相手の仕事をしてきましたが、今度は漁場環境の監視が主な仕事となりました。以前と同様によろしくお願いいたします。

久し振りに見る茂浦の海と空は以前と同じですが、ヤマセが吹くとちょっと寒いです・・・。



漁場部総括主任研究員　**今　井　美代子**

水産増殖センターと、環境保健センターを２往復して、３回目の水産増殖センター勤務となりました。どうぞ、よろしくお願いいたします。



ほたて貝部技師　**大　水　理（まさ）　晴（はる）**

このたび、新採用で水産増殖センターに配属になりました。

本格的な「水産学」は初めてですが、「海」が大好きなので「海」に関わる職に就き、勉強ができることを大変うれしく思っております。一生懸命頑張りますので、よろしくお願いいたします。



貝類部総括研究管理員部長事務取扱

高　梨　勝　美

昭和47年に県庁に就職して以来、初めてのセンター勤務となりました。

この間、水産試験場では魚類の資源管理に係る調査、行政ではつくり育てる漁業等の分野を主に担当してきました。

貝類についての試験研究の経験はなく、特に種苗生産については全くの素人ですので、一からの勉強です。

よろしくお願いします。



魚類部総括研究管理員　**佐　藤　直　三**

内水面水産試験場（旧相坂養魚場）を振り出しに、水産試験場、普及所等に勤務してきましたが、当水産増殖センターは初めての勤務になります。

今まで外部から見ていた新勤務地にいささか戸惑っているところですが、これまでの経験を生かし、いささかなりともお役に立てればと考えていますので、よろしくご指導のほどお願いいたします。



技師　**石　戸　義　人**

定期人事異動により、内水面水産試験場から水産増殖センター（階上町駐在）となりました。栽培漁業センターでは、おもにヒラメの餌料培養、中間育成を担当します。

海産魚類の種苗生産に携わるのは初めてですので不慣れな点が多々ありますが、栽培漁業センター内では大勢のお姉さん達と仲良く業務を行う所存です。どうぞよろしくお願いします。

《平成12年度年間主要行事予定》

4月　○ホタテガイ採苗情報会議（4月－5月）
○ホタテガイ母貝成熟状況調査（4月－5月）
○マダラ中間育成試験開始（脇野沢村）

5月　○春季養殖ホタテガイ実態調査
○アカガイ付着稚貝調査（5月、8月）
○マダラ中間育成試験開始（佐井村）
○クロソイ種苗生産試験開始
○ウスメバル天然若魚中間育成試験（センター）
○アワビフィールド調査（易国間：5月－11月）
○藻場・水産資源マップ作成事業調査
（岩崎村～今別町沿岸、5月－8月）
○磯焼け対策新技術実証調査（佐井村）
○マコンブ増殖試験開始（大間町）
○ウニ増殖試験開始（東通村）

6月　○ホタテガイ付着稚貝情報会議
○ホタテガイ養殖管理情報会議（6月－9月）
○春季東北ブロック水試等連絡協議会（場長会）
○アワビ付着稚貝の室内飼育試験
○マダラ種苗放流式
○マダラ放流効果調査（脇野沢村～佐井村）
○海藻資源モニタリング調査
○マリン・エコトピア調査（6月、9月）
○陸奥湾海草藻場修復試験開始
○尻屋磯根資源調査

7月　○サザエ天然採苗試験
○アカガイ・ラーバ調査（7月－9月）

8月　○イワガキ種苗生産開始

9月　○クロソイ標識放流（脇野沢村）
○秋季東北ブロック水試等連絡協議会（6分科会）

10月　○秋季養殖ホタテガイ実態調査
○地まきホタテガイ実態調査（10月－11月）
○エゴノリ人工採苗研修生受け入れ（10月－12月）
○コンブ藻場維持管理試験
○アオワカメ養殖試験開始（大戸瀬、センター）

11月　○ナマコ増殖場調査（むつ市、川内町）
○ミネフジツボ・ラーバ調査（11月－3月）
○マダカアワビ種苗生産開始
○マコガレイ標識放流（三沢市、六ヶ所村泊）

12月　○ホタテガイ母貝成熟状況調査開始（12月－5月）
○マダラ種苗生産試験開始
○エゴノリ増殖試験（今別町、三厩村、深浦町）

1月　○ミネフジツボ採苗試験（1月－3月）
○水産試験研究成果報告会

2月　○マコガレイ種苗生産試験開始
○コンブ藻場維持管理研究報告会

3月　○ホタテガイ天然採苗情報予報協議会

周年毎月　○海況自動観測と情報提供
○貝毒発生監視調査
○浅海定線観測（陸奥湾）
○ミネフジツボ養殖試験
○イワガキ養殖試験

平成12年度水産増殖センター職員配置

参事
所長事務取扱（足助　光久）
次長（高橋　克成）

- 総務室長（高村　稔）：念代琢人主査、久須美信樹主事、荒田茂総括主査、和田幸市技能技師、盛善道技能技師
- 漁場部長（伊藤　秀明）：青山宝蔵研究管理員、三津谷正研究管理員、今井美代子総括主任研究員、長崎勝康技師
  - 試験船なつどまり（濱田勝雄船長）：長津司機関長、吹越弘光甲板長、逢坂健幸機関員、本堂洋一甲板員
- ほたて貝部長（小坂　善信）：木村博聲主幹、吉田雅範技師、大水理晴技師、川村要技能技師
- 総括研究管理員 貝類部長事務取扱（高梨　勝美）：柳谷智総括主任研究員、田中淳也技師
- 総括研究管理員 魚類部長事務取扱（塩垣　優）：佐藤直三総括研究管理員、松坂洋総括主任研究員、山田嘉暢技師、鹿内満春技能技師
- 総括研究管理員 海草部長事務取扱（仲村　俊毅）：桐原慎二総括主任研究員、山内弘子技師
- 階上町駐在：石戸義人技師